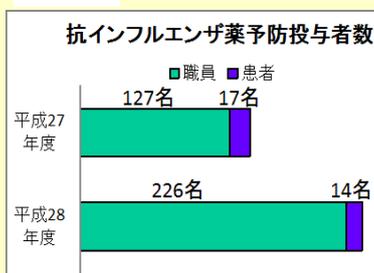


この号の内容

- 1 抗インフルエンザ薬予防投与について
- 2 サージカルマスクの適正使用推進について

Fig. 1



抗インフルエンザ薬の予防投与について

平成 29 年 2 月 20 日に大崎保健所は、大崎管内の医療機関あたりのインフルエンザ患者の人数に減少傾向が認められるものの、依然としてインフルエンザ警報は継続中であることを発表しました。市民病院でもインフルエンザは猛威を振るい、2 月 21 日の時点で職員 226 名、患者 14 名に抗インフルエンザ薬の予防投与を実施しました。この予防投与者数は昨年度の予防投与実施者の総数である職員 127 名、患者 17 名と比較すると、今年度は特にインフルエンザ感染者が多かったのが分かります。(Fig. 1)

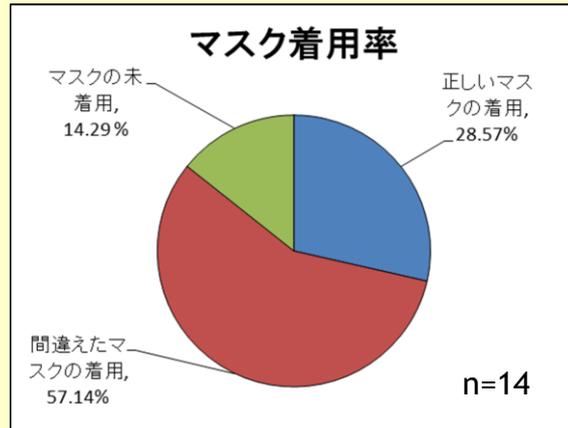
抗インフルエンザ薬の予防投与は近年提唱されたもので、従来までインフルエンザワクチンの予防接種が、流行拡大予防の重要な手段として広く認識されていました。2010 年小林らは日本の医療従事者の 84.6%において季節性インフルエンザワクチン接種が実施されたと発表しており、日本の医療現場にはインフルエンザ対策の高い意識がある事を報告しています^{*}。しかしこの高いワクチン接種率を誇る日本の医療現場においても、毎年患者-職員間によるインフルエンザのアウトブレイクが生じているのも事実です。これは毎年厚生労働省が決定している、インフルエンザワクチンの製造株だけでは市中で流行するインフルエンザウイルス株全てを網羅できていないことや、予防接種のみでは 100%感染拡大を予防できないことを示唆しています。そのため 2012 年に日本感染症学会は積極的な抗インフルエンザ薬の予防投与の実施について提言を発表しております。市民病院でもこの提言を受け、当院の感染対策マニュアルでの規定を満たす患者や職員に抗インフルエンザ薬予防投与を無償で実施しています。抗インフルエンザ薬予防投与を実施後、市民病院ではインフルエンザの院内感染を 100%近く封じ込めることに成功しており、予防投与は有効であると考えております。抗インフルエンザ薬予防投与には医師や薬剤師に大変な苦勞をかけていますが、今後もよろしくお願いします。また市民病院独自の取り組みとして、抗インフルエンザ薬使用後の空の容器ないしは空の PTP の回収を行っておりますが、これは自己判断による服用中断を防止する目的で実施しております。抗インフルエンザ薬予防投与実施の際にはお手数ですが、空の容器ないしは空の PTP の提出をお願いします。

トピックス

病院負担の抗インフルエンザ薬予防投与を開始して以来、一部の抗インフルエンザ薬予防投与でマニュアルにそぐわない不適切な処方が見受けられます。特に研修医が抗インフルエンザ薬予防投与を処方する場合に不適切な処方が多い傾向にあるため、抗インフルエンザ薬予防投与の際には感染対策マニュアルを熟読の上で処方をお願いします。また感染管理室では不適切な処方であると判断した場合、抗インフルエンザ薬を本人に実費負担して頂くようにお願いしています。

サージカルマスクの適正使用推進について

感染管理室では今年度抗インフルエンザ薬の予防投与を実施した部門では、特にインフルエンザ予防のためサージカルマスクの実施率が高いのではないかと考え、マスク着用率に関する調査を実施しました。調査方法として2月9日に実施したICTラウンド中に該当部署で勤務する職員を対象に目視にてマスク着用率の調査を実施しました。



今回の調査では医師、コメディカル、事務職を含む14名の職員を対象として調査しました。調査結果より12名（約85%）でマスクの着用を認め、咳エチケットに対する非常に高い意識が認められました。しかしマスク着用の質に注目すると、正しく着用できていたのは4名（約29%）で、対象者の半分以上の8名（約57%）で誤ったマスクの着用が確認されました。今後はマスク着用率のよりもマスク着用の質を向上させる取り組みが必要と考えられます。そのため今後は感染管理室によるマスク着用の実地調査や啓発活動を行う予定です。

またインフルエンザはマスクで予防できる飛沫感染のみならず、人の手や物を介する接触感染でも伝播しますので、併せて手指消毒の実施もお願いします。患者や市民にとって、大崎市民病院の職員はマスク着用や手指消毒に関する手本となるように正しい着用方法をお願いします。

